ホスピス医師ご紹介





内科 柴田和成

はじめまして。2022年5月からホスピス病棟に着任いたしました 柴田和成と申します。経歴からご紹介したいと思います。私の医者人 生は、今から約40年ほど前に私立医大病院の消化器外科医として始 まりました。今の人権尊重などが重視される時代とは違い、どんな無 茶な要求にも応えなければならず、医者1年目は(軍隊でいう)新兵 さんと呼ばれておりました。武者修行のような経験をしながら食道か ら直腸までの消化器癌、肝臓癌、膵臓癌などの消化器外科手術も可能 となり、大学で後輩の指導教育も行うようになりました。

13年たち大学を辞し、市中病院で4年ほど外科医を続けておりました。そこでは折にふれ内科系の患者さんをみることがあります。この際、自分の内科系の知識の乏しさに愕然としてしまいました。

それに我慢ができず、それから、外科医を続けながらも、内科の勉強を学生に戻ったつもりで行っていきました。 40歳を超えたあたりで内科医としての臨床での修行のため、17年続けた外科医をやめ、内科医として の人生を歩み始めました。この年齢になっては、大学病院で内科の研修を受けられるはずもないので、 消化器、循環器などの専門医のいる病院にいくつか勤め、教えを乞いました。そうこうするうちに、 21年が過ぎて外科医よりも内科医としての経験の方が長くなっておりました。

聖ヶ丘病院で勤務が始まって2ヶ月ほどになりました。ホスピス科とはなんぞや。私が感じたのは、内科・外科は生きることを追求する学問ですが、ホスピス科は人が死に臨み平安を追求する学問ということです。宗教は死に臨んで心の平安をもたらしてくれるかもしれませんが、肉体的な苦痛はとってくれません。ホスピス科では精神的にも、肉体的にも安楽を目指しているのです。

なお、私が入職して感じたことのもう一つは、病棟スタッフに温かく明るい雰囲気があることです。 ホスピス科へ入院する患者さんは、ご自宅での限界という面もあって、沈痛な面持ちで入院すること が多かったように思いますが、当院スタッフの温かく明るい雰囲気に癒されていく様子には驚かされ ました。最後にターミナル期を充実して過ごすことができれば、たとえ死が待ち構えていようとも、 ご家族に感謝を伝え、満足した死を迎えることができるのだと。私は微力ながら、そのお手伝いをし たいと思っています。よろしくお願いいたします。

ホスピス病棟の様子







「ホスピスは、自分の死に対峙している終末期の患者さんと、その家族の身体や痛みを理解し、全人的にケアする営みといわれています。

ケアすることで、皆さんの生活の中に小さくても「良かった」と思える時間を持てるように、日々チームで取り組んでいます。 そのチームに、柴田医師をはじめ、様々な職種の新しい仲間を迎えました。

今まで育んできた想いも大切に、新しい視点も力に加え、チームとして成長できるように日々奮闘中です。

「ホスピスは死に行くところ」といわれる方がいますが、ホスピスの中でも人生は止まることなく進んでいます。

しかも死が目前にあることによって、一層密度の濃い「生」が営まれることを私たちは日々感じています。

ホスピス病棟師長 清水亜由美

♦♦♦ 帯状疱疹ワクチン接種のご案内 ♦♦♦

帯状疱疹ワクチン接種の予約受付を開始いたしました。

★接種対象年齢

50歳以上

★接種回数

20

★料金

22,000円(税込)/回

ご希望の方は、電話または受付にて予約をお願いいたします。



最近、胃腸の調子が悪いと感じたことはありませんか?

暑さが続く季節は身体がストレスを感じやすくなり、便秘や下痢を 繰り返したり、胃もたれや食欲が低下したりと胃腸の働きが弱くなりがちです。 そんな時には消化の良い食事を摂ることを心がけ、 本格的な夏に向けて体調を整えていきましょう。



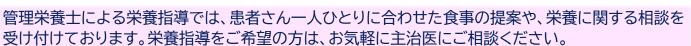
消化の良いお食事は 健診前にもおすすめです!



2.胃酸の分泌を高める食品を避けましょう。

香辛料・甘みの強いもの・食塩の多いもの・酸味の強いもの・アルコールやカフェインを多く含む飲料などは控えましょう。

- 3.食事はゆっくりとよく噛みましょう。 よく噛むことで消化酵素が分泌され、消化を助けてくれます。
- 4. 冷たいものを食べすぎないようにしましょう。



管理栄養士 前田真紀

